

地域福祉計画策定作業部会「支援の重なり検討分科会」意見

現在行われている支援の重なる事例	何と何の重なりか
生活困窮相談支援で関わっている方（大工経験者）が高齢者宅天井の修繕ボランティアを行っている。	相談支援×参加支援
生活困窮の緊急食料支援のための食糧をコープ、ローソンから廃棄生鮮食品等を寄付していただく仕組みをつくっている。	福祉×環境
地域コミュニティ組織運営のカフェに精神障害のある方が参加している。	福祉×まちづくり
玄さん元気教室（体操教室）では、教室に参加されなくなった方について、地域住民の方の訪問や行政へのつなぎを行っている。	相談支援×地域づくり 福祉×まちづくり
学校で認知症サポーター養成講座を行っている。	福祉×教育
地域の農園やホテルからの業務を障害者が担っている。	福祉×まちづくり
就労継続支援B型では、運動施設の草刈、図書館内でカフェを運営している例がある。	福祉×まちづくり 福祉×教育
軽度認知症高齢者が同じ共同住宅の入居者の自宅の庭掃除を担っている例がある。	福祉×まちづくり
sotoカフェ（社会とつながりにくい生活困窮者の集う場）へつないでいる。	相談支援×参加支援
働くことに自信が持てず、長年仕事についていない方等へ社協での資料発送の就労体験等につないでいる。	相談支援×参加支援
福住地区コミュニティ組織と地域住民の方とが協働してこども食堂を運営している。	福祉×まちづくり
地域コミュニティ組織が行っている集落営農活動に障害者や生活困窮等の方に中間就労として従事してもらう。（呼びかけ中）	福祉×まちづくり

地域福祉計画策定作業部会「支援の重なり検討分科会」意見

今後重ねられる可能性のある取組み	何と何の重なりか
生活困窮者支援の就労体験として、社会へ一歩踏み出せない方に地域の日役等に有償の就労体験として従事してもらう。	福祉×まちづくり 参加支援×地域づくり
地域コミュニティ組織運営のカフェの運営等を社会のつながりが持ちにくい人に手伝ってもらう。（例 お菓子づくり等）	福祉×まちづくり 参加支援×地域づくり
商工会議所・商工会会員企業と就労支援機関や学校をつなぐ取組み（プラットフォームやつなぐ組織の整備）	福祉×まちづくり
商工会議所・商工会会員企業への障害者雇用セミナーや就労支援施設見学会の実施	福祉×まちづくり
路線バス利用促進事業（のってECO）の日に地域のボランティア等が付き添って、障害者等のお出かけツアーを実施する。	福祉×まちづくり
地域コミュニティ組織の仕事を内職等として障害者等に請け負ってもらう。	福祉×まちづくり 参加支援×地域づくり
社会的孤立を考えるゲーム参加者がゲーム中に自分にできることとして発言した内容を資源マップに落とし込む。	福祉×まちづくり
ひきこもりや集団になじみにくい人などが高齢者のデイサービス施設等で、利用者を「見守る側の人」になる。	参加×地域づくり
子どもの夏休みの居場所として玄さん元気教室やサロンに子どもが一緒に参加できるようにする。	福祉×まちづくり 福祉×教育
軽度認知症高齢者を居宅近くの障害者地域活動支援センターのボランティア支援員としてつなぐ。	相談支援×参加支援
障害の就労継続支援事業所が、家族が地元にはいないお墓の管理やシルバー人材センターが担っているような業務を担う。	福祉×まちづくり
地域活動支援センターが地域の神社清掃など地域活動の日役に参加する。	参加支援×地域づくり 福祉×まちづくり
地域活動支援センターが図書館や小学校の清掃保全作業等ボランティアに参加する。	参加支援×地域づくり 福祉×まちづくり
ちょっと手伝ってもらえるとありがたい程度のスポットの仕事（農繁期の作業、プラ成型の内職etc）の情報が得られる仕組み	福祉×DX
人材派遣業者と住居確保に苦慮する求職者をマッチングする仕組み	相談支援×参加支援 福祉×経済
地域コミュニティ組織の事業、例えば地区の歴史情報を集めるのに要介護高齢者の方に話をしてもらう。	福祉×まちづくり
地域コミュニティ組織の事業、例えばイベントの前のコミセン周辺の草刈をひきこもりがちな人に手伝ってもらう。	福祉×まちづくり

創生5 5つの柱	こうなってほしい／こういうことができる	実現するためには／じぶんができること／あの人だったら(あの人と一緒にだったら)できること／今回の繋がりを生かしたいこと
ア 子育てに優しいまちへ (子どもの居場所づくり、子育て支援 など)	○子どもの居場所づくり ・だれでも、どんな人でも立ち寄れる場所 ・コミュニティセンター、まちの中の店舗、豊劇、ユースセンターなど ・オンライン上のつながり(Eスポーツ、スイッチ) ・入口を入りやすく、集まりやすく、方法にこだわらない ○多様なつながり方を肯定する ・ユースセンターの考え方を商店街に働きかける＝経済活動につなげる (例えば大開通り貸しスペース「まちの基地アンテナ」活用など)	・永楽館(過去あった)、豊劇でEスポーツ大会ができれば、つながりができるのでは ・サードプレイスの方が大切。重層的なものがあれば、多様な子供の受け皿になるのでは。一方で、学校が居場所になっていない部分もあるのでは…。学校がそこを担っていければいいと思う。学校に丸投げではなく、一緒にやっていければいいのでは。 ・人流を創設する中で、空き店舗で子供たちに対してのビジネス体験ができる場があれば、大開通りの人流も改善されるのではと思う。また大学生がうまく絡めれば… ・地域では子供会は規模が小さくなっている…、なのに、やらないといけないうる行事はたくさんある。区全体でサポートできるような自治運営ならできるのでは。 ・村祭りも今は、区全体でやっている。そうしないとできない。コミュニティとしては、子供たちに昔の祭りを体験してもらいたく、16区の力を集結し、できるように協議している。子供たちに経験させたいことはたくさんある。 ・子供の居場所、大人の居場所も空き家を有効活用できないか。そのためにはデザイン力が重要。色で部屋を区分し自由に使えるような場があればいいのでは。その場が顔が繋がる場となる。地域の活性化、経済の活性化にもつながると思う。ただ、だれが、いつやっていくかが重要なポイント ・公園問題、安全な公園、物騒な世の中にこどもだけで遊ばせることに不安感もある。そこで、モデル的に『○○公園には、見守りの人がいる』というのもあっていいのでは。 ・自由に遊べる公園の必要性。ボール遊びもできない…。 ・冬季、屋外で遊べない…、ちょっとした屋根がある公園があればと思う。 ・時間を超過した施設のこどもの居場所が気になる… ・自宅の近くで遊べる場所、しかもこの時期、暑すぎるので、室内で遊べる場⇒区にある会館が場になれば。そこに大学生がサポートしてくれればいいのでは。 ・祭りは地域で守っていきたい(伝統文化継承)、しかし、中にはなんでやるの？なんで踊らなあかんの？という意見もある。祭り等に対する時代の考えとのずれ。 ・区の遠足が現地集合・現地解散が主になっている。それってなんの意味があるのかと思う。つながる機会をつくっても、それに乗ってこない大人がある。 ・ラジオ体操を頑張って行っても承認されない、地域のつながりがいないから行ってもおもしろくない、もっと学校が力を入れてほしいな、 ・区の行事に、区民が参加しない、行事の主体しか参加しない行事になっている ・つながりをもって行事を盛り上げていく必要がある。つながりの重要性、地区の中で子育てしている親同士の話し合う機会があればと考えている ・ニーズが把握できないと行事もできない ・子育て中の親の不満を言う場があってもいいのでは
イ 経済が活性化するまちへ (すべての人が活躍する場 など)	○障害、グレーゾーン、外国人の就労支援 すべての人が活躍できる社会 ・すべての人を受容できる社会、雇用環境を整える ・地域もすべての人を受容し、地域の一員としてともに生活する	・活躍できるとは？ 出番がある、役割があるという認識。障害があっても仕事ができる＝労働力として受け止める ・城崎では毎年、障害者のインターシップを実施している。企業にとっての障害理解の場にもなっている。但馬内で毎年10名程度参加されており、そのまま就職される人もいれば、違う企業に就職したりしている。それを市内全体でできればいいのでは…。企業には、障害者雇用がまだ浸透できていない。直接働きぶりを見ていただく方がいいと考えている。この中での、好事例を共有できればいいのでは。 ・横断的なプラットフォームがないと思う。ミスマッチがあると思う。企業側としては、切り出しができて、マッチングが必要。その横のつながりができればいいのでは。

創生5 5つの柱	こうなってほしい／こういうことができる	実現するためには／じぶんができること／あの人だったら(あの人と一緒にだったら)できること／今回の繋がりを生かしたいこと
ウ 安心安全なまちへ (災害に強く、健康で、支え合える社会 など)	○地域の新たな支え合いの姿 ・隣保ごとにグループライン ・平時の地域づくりが有事の際に生きる ○女性や障害者や外国人など、多様な人々が意思決定の場に参加すること ○市ができること・できないこと、地域ができること・できないことを、平時に考えておきたい。 ○見守る側、見守られる側双方が役割を果たすという認識を持ってもらうこと	・助け合いは重要であり、災害時には肝になる。しかし、防災のためにつながりを作りたいといってもなかなかできない。平常時のつながりづくりが重要。 助け合い・支えあいの前に、自立することが重要。自立というのは、災害に対して準備することも含む。この土台があってこそ支えあいが成立すると考えている。ここを啓発していきたい。 ・市の避難訓練において、避難してくる人は手ぶらでスリッパで来る…。目的や手段が重要になってくる。「自分たちのために…」という意識の醸成が必要。啓発と仕組みが重要。 ・区の隣保長会議において、区内にある障害者GHの災害時について意見が出ていたが、区としては「事業所でやってもらえたら…」との意見が。お互いが歩み寄っていく必要、やりとりが必要だと思う。 ・要配慮者避難計画(事業所が記入)において、区とのやりとりが書いてあれば区のとらえ方、意識が変わってくるかも。 ・いきなり何かを依頼されても…、やっぱりお互いが話し合いをし、ウィンウィンにならないといけない。
エ みんなで集えるまちへ (人と人とがつながる、役割・出番がある など)	○地縁型のコミュニティが薄れる一方で、個人が選択できるテーマ型やイベント型 のコミュニティも必要 ・一過性のイベントにせず、つながり続ける仕掛けが必要	・コミュニティでの運動会等の区の負担感がある。やれば楽しかったといわれるが、行くまでが…。 月1回『ごはんの日』を実施している。調理が好きな人が調理し、お昼をふるまっている。動員をかけるのではなく、行きたい人がくるような場になっている。興味のある場に参加することで、つながりが生まれている。必要とされていることの仕掛けが重要。 ・マルシェも実施している。その場に子供が参加している。子供が増えてきたので、子供の日を創設した。高齢者から始まった場が、今は多世代交流の場になっている。 ・いろんな人に出番があれば…(元警察官の見守り) ・情報を届けるプラットフォームの必要性。 ・地域の特性、状況によって、フレキシブルに、柔軟にやっていければ。 ・本当に困ったときに、困ったといえる人間関係は日頃からの関係性。そのつながりを楽しくつくる
オ 整備された「学び」のあるまちへ (生涯を通した学び など)	○子育ての常識の変化、障害のある方や外国人の方を理解し合えるような学びの場が必要。	・学び＝教育委員会だけだろ？ そうではない。すべての場面、事業に学びの要素はある。 親は自分の都合で子供のことを考えている。 人口が減少すると役割を複数持つことになる。ただ、複数の役割が学びにつながる。それは強みだと捉えることができるのでは。 ・雇用の一手手前の社会参加として、障害者・外国の方に来ていただきたいが、つながりがない。コミュニティでは課題と考えている。それぞれの所管課・関係機関から地域に出ることを後押ししてもらえたら。 ・外国のある方のルーツを地域で発表することをしているところもある。学校での授業でやっているところもある。関係性、出番、役割を創設する。 ・外国の方が消防団に入っている事例を聞いた。そうすることで地域の一員として認知されている。 ・外国の方の得意とすることを教えてもらうことでリスペクトにつながる、その場つくっていくのがいいのでは。食文化が入り口としては入りやすいのでは。 ・自己開示して、教えてもらう。お互いに…「教えたり、教えられたり」が大事 ・地域側からアウトリーチしていく方が距離が縮まる ・横断的な情報が不足していることが大きな課題では。関係性が続くことをやっていく必要があるのでは。デジタル技術を活用しては…、例えば子育てのIDOとか